

Oct27th 24



ZUNA UCHI

Aug9th-14th 24



CHANKOKO

Jan19th 25



HETOMATO



BARAMON KATE

島に残る伝統文化継承につながる 教育プログラムの作成



学校の統廃合。消える文化伝承習熟の拠点

島には、奇祭とまで呼ばれる特異な文化遺産が継承されている。その中でも「五島神楽」、「オーモンデー」や「ヘトマト」、「大宝砂打ち」は国の民俗文化財として登録された。人口減少と高齢化によって地域コミュニティが矮小化する中で、これらの地域の伝統芸能や祭りの継承のためには、地域の学校カリキュラムとして子供たちの学ぶ機会が重要になっていた。

しかし、子供の減少により学校が徐々に整理統合されてゆき、令和5年度には中学校2校と小学校2校が閉校した。統合により文化継承していた学区は、統合学区の片隅になり、学校の協力を得ながら伝統芸能などを習う授業の実施は以前より難しくなっていくことが予想される。



五島市という自治体

- **概要** 五島市は、九州の最西端、長崎県の西方海上約100kmに位置している。五島列島の南西部にあって、総面積は420.12km²、10の有人島と53の無人島で構成されている。（五島市HPより）

- **人口** 34,408(-548)人（19,439(-139)世帯）令和6年1月（前年）
- **移住者数** 245人（令和4年）
- **高齢化率** 42.0(+0.5)%
- **学校と生徒数** 令和5年2月（前年）

小学校 12 (-2)校 1,414(-72)人・中学校 8(-2)校 763(-22)人
全日高等学校 4校 726(-33)人 **計** 2,903(-127)人

- **歴史と文化** 白村江の戦い（663年）後、新羅との外交関係が悪化すると、**遣唐使**は五島から東シナ海を横断し、波の高い外洋を通過する危険な航路をとるようになった。最後の寄港地にあたる五島において航海安全を祈り旅立った。その中には、天台宗を伝えた**最澄**と真言宗を広めた**空海**もあり、彼らに関する伝説が多く残っている。また**潜伏教徒の歴史**があり、市民に一定程度のカトリック教徒がおり、地域ごとに教会がみられる。

- **産業と観光** 赤サンゴを含めて宝飾品の製造が盛んだったが、資源の枯渇と共にブリ・真珠などの養殖業に切り替わり、高齢化や魚価の下落と共に養殖は大手企業による**マグロ養殖**、一般漁師は**定置網漁**に置き換わっている。地域によっては水源確保に苦慮しているが、コメ生産も少なくはない。毎年もち米も生産する農家では、「**かんころ餅**」をふかして干したさつまいもと併せて練り上げ作る習慣がある。これが特産品として観光施設などで販売されている。**ヤブツバキ**が山の中に自生しており、毎年2月になると「椿まつり」を開催している。



地域伝承の文化を残す

戦後復興以降、留まることもなく人口減少が続いてきた五島。その都度、学校は統合され閉校が進められてきた。令和5年度に閉校する地域にも国指定重要無形民俗文化財であるヘトマトなどがある。

驚異的な速度で進む過疎化の下で、伝統文化を子ども会や学校教育の場を使いながら子供たちに継承させるという取組みは限界にきている。地域にあった**学校は統合され**、町から子供たちの姿が消えた。



一方、1990年に小学校・中学校が閉校した大宝地区には、同様に国指定重要無形民俗文化財である大宝砂打ちが閉校後30年以上伝承されている。



変化する伝統

これはもはや当市だけの問題ではない。今や日本中の伝統芸能が消滅しようとしている。今の人数でできる形に矮小化させて維持したりできる内は良いほうで、既に存在すら忘れ去られてしまった芸もまた少なくないとみられる。

残し方の工夫

伝統文化消失の危機感を解消する

Project 1 学校閉校後35年の未来を取材

大宝地区は、貴重な伝統文化が多く保全されている地域である。旧玉之浦町時代の平成2年度に人口減少に伴って、大宝中学校ならびに大宝小学校が統合されて以降まもなく35年を迎える。今回閉校を迎える他の地域にとっては「先行事例」となる大宝地区での取材を通じて、将来迎えるであろう課題や解決方法などのヒントを掴んでいきたい。

✓仕切る方との座談会実施

主に男性によって仕切られている伝統文化。次世代へのバトンの渡し方なども含めて地域の方々の話を聴いてみたい。

✓支える方との座談会実施

主に男性によって仕切られている伝統文化。されど祭りでは「ふるまい」という形での接待が行われ、そこでは女性たちが携わっている。支える側の方々の声を集めてみたい。また子供たちの声も集める。

Project 2 未来の情報をどのように今伝えるか

先行事例を単純に紹介するだけでなく、35年近く残せた仕組みを分析した上で、最小限でも守るべきことを探し出していく。さらにその結果を本年度から学校を失う崎山、大浜地区の方々にどのように伝えるべきかを考える。

✓保全ファクターを知る

大宝で保全するために何をどの程度はすると決めていたのかを整理する。なぜそれがあればスムーズに保全できるのかを考察して、「〇〇をすれば保全ができる」仮説を立てる。

✓仮説の紹介と提案

立案した仮説に基づいて、実際に崎山、大浜の住民と交流会を行い、立案に対する意見を集約してまとめる。まとめられた意見を基に再びチームで議論し、修正した保全方法案を策定する。

君との島での挑戦が過疎地を変え、日本を変える。

東京大学FS実施スケジュール



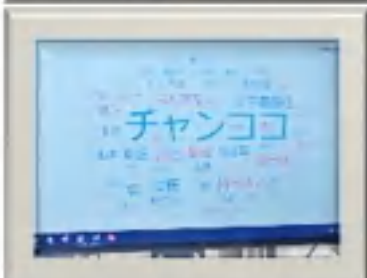
6月（適切な時期に東大へ訪問）

当地地域課題と当プロジェクトについての説明を学内で行う。五島の伝統芸能を映像で紹介する。初めて伝統芸能を観た時に感じた魅力などを語り合いながら、現状で想定する仮説のアイデアを発表し合う。



8月1回目現地入り（時期：大浜・崎山チャンココ）

念仏踊りの練習または本番を見学できる時期を目標に日程を調整して来島。現地を見学。大宝町内会の方々との交流。大浜、崎山の住民との交流も実施。



10月（時期：大宝砂打ち）

得られた情報の整理をチームで行う。

1月2回目現地入り（時期：下崎山へトマト）

現地の見学。対象地区での仮説の紹介と地元意見の集約。大宝町内会との交流も実施。



2月3回目現地入り（現地報告会）

五島市内において市民向けの報告会を行う。

なお本市プロジェクトの成果については、市広報への掲載だけでなく、関係学会での発表・学术论文への投稿で公表していく予定。